



古代から続く祈りの道 - 大和の石仏巡行 -



第3回 春日山石窟仏

元 久留米工業高等専門学校教授
伊藤 義文

1. 場所

春日山石窟仏（通称穴仏）は、奈良市・春日山の中にあります。前回の地獄谷石窟仏の説明の際に紹介した滝坂の道（旧柳生街道）の近くにあり、奈良奥山ドライブウェイ（高円山コース）の終点から100mほど山道を登った所にある大規模な磨崖仏です。周囲の春日山原始林は「古都奈良の文化財」の1つとして世界遺産に登録されています。標高498m、面積約250haの広さがあり、841年に狩猟と伐採が禁止されて以来、伐採や災害にあっておらず、人手が加えられていない原生林です。春日大社の聖域として保護されてきた大きな鎮守の森なのです。

2. 歴史

春日山石窟仏は東大寺大仏殿を造営するにあたって、春日山の南面傾斜地に露出する凝灰岩を龕状に開窟して石材として切り出した跡です。後年、奈良・平安時代に石窟の

壁面に高肉彫りして多くの磨崖仏を設置しました。近年、大正13年に国の史跡に指定され、昭和2年3月に上屋を設置しこれを保存するに至っています。現在は風雨を防ぐため、石窟全体が上屋で覆われ周囲を金網で囲って人が入れないようにになっています。今回、関係官公庁の許可を得て、石窟の劣化・欠損等の確認のために実測・撮影・観察調査を行いましたので、その結果をご報告します。

3. 石窟

春日山石窟仏の仏像配置図を図1に示します。石窟仏は東西2窟から構成され、東窟は奥行3.35m、高さ2.0m、開口4.5mで中央に石柱が立ち、中央柱の東側の天井は大きく崩壊しています。西窟は奥行2.3m、高さ1.7m、開口4.7mで、東窟と西窟の境の天井部で、大きな岩石や土砂・木の切り株などが堆積しています。春日山石窟仏を構成する凝灰岩は、比較的脆い岩質である上に、1200年近い経年劣化や、その間の地震、雷などの外力による崩落が起こったのではないかと考えられます。

4. 石仏

東窟の西壁には蓮華座に立つ地蔵菩薩4体と地蔵の左側に天部像1体が刻まれています（図2）。ただし、天部像は大破しています。地蔵菩薩は錫杖を持たない古い形で、手には宝珠を持っています。像高91cm、平安時代後期の作と言われています。

東窟の中央柱の各面には像高60cmの顕教四仏が彫られています。東面は薬師如来、南面は釈迦如来、西面は阿弥

著者略歴



1947年生まれ。72年、京都大学大学院卒業。以降、民間企業にて真空蒸着技術のフィルム応用や各種包装材料の開発に携わる。2004年、久留米工業高等専門学校教授。15年、退職。ライフワークとして石仏調査を行い、その成果をYouTube (<https://www.youtube.com/channel/UCvJiTXSHW2MoqwzdpszXcOQ>) に公表している。
✉ itou910@zeus.eonet.ne.jp

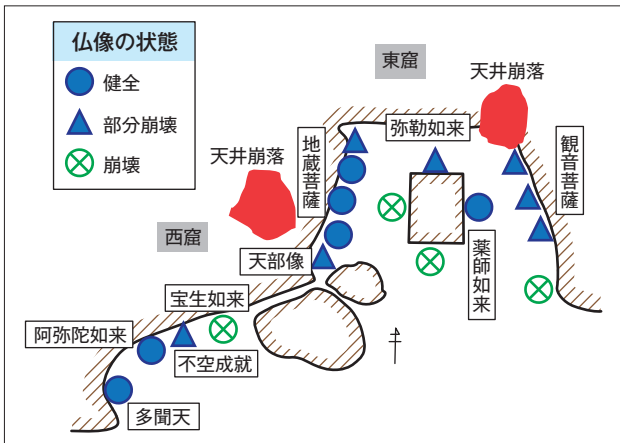


図1 春日山石窟仏一仏像配置図



図2 東窟一西壁

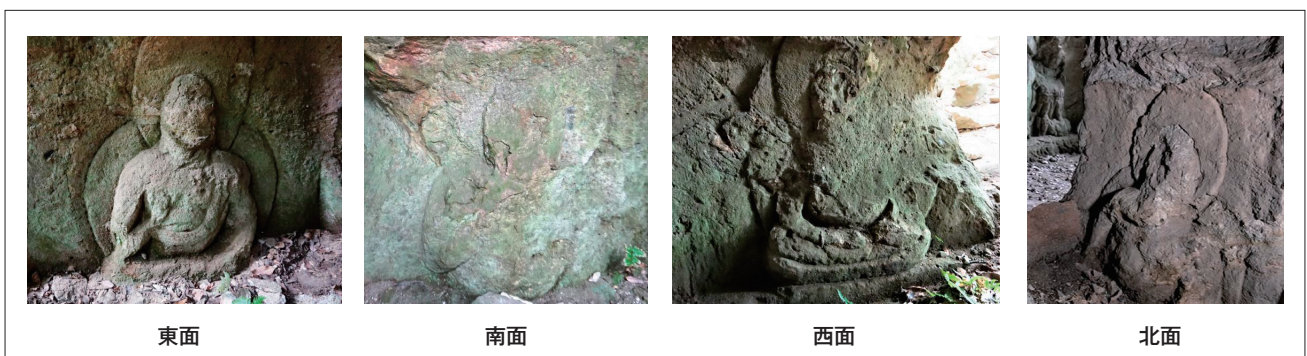


図3 東窟一中央柱



図4 東窟一東壁



図5 西窟

陀如来、北面は弥勒如来を半浮き彫りにしています(図3)。

東窟の東壁には像高93cmの観音菩薩が3体彫られています。これらの仏像は顔の部分が大きく欠落しています(図4)。

西窟の入口に多聞天、その横に金剛界五仏が刻まれています。そのうち阿弥陀如来、不空成就、大日如来の3体は残存しますが、宝生如来、阿闍如来は全壊しています(図5)。不空成就の東側に「八月廿日始之作者今如房願意」と陰刻してあり、古い記録によると八月の上に「久寿二季」とあったらしく、久寿2年(1155年)の造像銘が刻まれています。また不空成就の西側にも「保元二年二月二十七日仏造始四月二十一日」の墨書銘があると古い調査書に記載されていますが、現在は判読不可能な状態です。これら

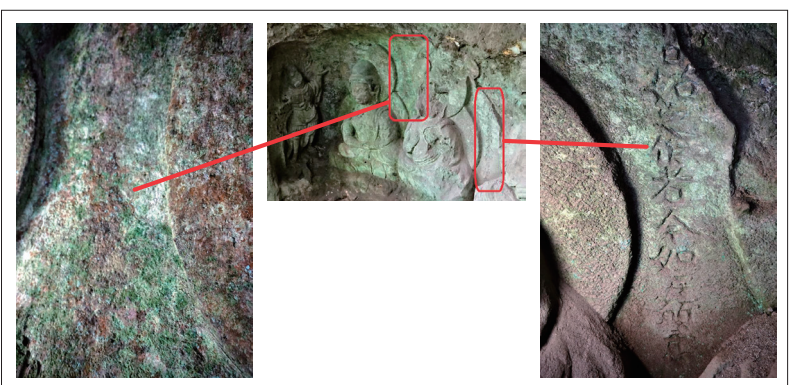


図6 碑文一西窟

のことから、制作時期は平安時代末期(12世紀中期)の作品と見られています(図6)。



破断面：一気に破壊が進んだと思われる様相

図7 破壊状況-天井落下（東窟東側奥直上）



上から落下の跡：「穴」「木」の存在

図8 破壊状況-東窟・西窟の間

5. 保存状態

石窟仏天井部の崩落が2カ所見られ、その結果土砂や切り株の堆積が起っています。1カ所は東窟の東壁と中央柱の天井部（図7）で、もう1カ所は東窟と西窟の境の天井部（図8）で、大きな岩石や土砂・木の切り株なども堆積しています。

また、風化による仏像の劣化・部分欠損も認められ、東窟の瓦礫の中に仏像の一部と思われるものが数個確認できました。18体の仏像のうち、部分欠損しているものが7体、完全に崩壊しているものが4体、確認できないものが1体ありました。また、西窟の不空成就の右に印刻されている制作者の名前は確認できましたが、制作年月日の文字は確認できませんでした。

6. まとめ

春日山石窟仏では、巨大な凝灰岩を龕状に開窟した後、18体の磨崖仏が高肉彫りされています。石窟仏は東西2窟に分けられ、東窟には**顕教系**¹⁾の諸仏が、西窟には**密教系**²⁾の諸仏が配置され、顕教と密教の融合が見られる貴重

な文化財です。保存のために上屋を設置し、周囲を金網で囲って一般の方が入れないようにしていますが、天井の崩落や石仏の欠損などが起っており、磨崖仏の保存の難しさを実感しました。

春日山石窟仏の動画はYouTubeにアップロードしていますので、ぜひ下記のキーワード検索で美しい動画をご覧ください。

検索：奈良・春日山石窟仏 - YouTube

URL:<https://www.youtube.com/watch?v=b-Mn9jJLfcQ&t=403s>

- 1) 顕教：お釈迦様が聞く人の能力に応じて、言語や文字で明らかに説いて示した教え。奈良時代までの仏教は、すべて顕教と呼ばれるものでした
- 2) 密教：真理そのものの現れとしての大日如来が、究極の教えを示したものです。師匠から弟子へ厳格なルールを持って、教えや作法が伝えられます。神秘的な要素が多く、非公開的な部分が多い、秘密の教えです。遣唐使に同行した最澄・空海はこの密教を学び、帰国後それぞれ天台宗・真言宗を創始しました

ベンチャーキャピタル部門において日本で初の投資

ドイツ・エッセンを本拠地とする**エボニック インダストリーズ**は、自社のベンチャーキャピタル部門（以下、エボニック ベンチャーキャピタル）を通じ、日本のベンチャーキャピタルである**グローバル・ブレイン**が運営する8号ファンドに出資した。なお、両社は投資額を開示しないことに合意している。

グローバル・ブレインは1998年に東京で設立されたベンチャーキャピタルで、現在は、シンガポール、インドネシア、韓国、英国、ドイツ、米国、中国、インドにも拠点を構えている。同ファンドは、主にバイオテクノロジー、食品・農業技術、クリーンテクノロジー、革新的材料、ディープテックなどの分野で破壊的イノベーションに取り組むスタートアップ企業を投資対象としている。

ファンドへの投資は、スタートアップ企業への直接投資と並んで、エボニック ベンチャーキャピタルの投資戦略の一部となっており、今回の投資によって、エボニック インダストリーズはグローバル・ブレインの国内外のネットワークから恩恵を受けることができる。

エボニック ベンチャーキャピタルの代表を務めるベルンハルト・モーア氏は、「日本は、化学産業が発達し、興味深い研究活動も行われており、非常に革新的な国。またスタートアップの活動も盛んである。我々もその一員として関わりたいと願っている。新しい技術やビジネスチャンスにいち早くアクセスできることは、エボニックの既存の活動との相乗効果を見出すうえで、とても重要である」とコメントしている。（小林千咲希）